

むくのきだより 10月号



令和3年9月30日 港区立赤羽幼稚園 園長 宮崎 直人

食欲の秋、読書の秋、芸術の秋、そして、スポーツの秋！

園長 宮崎 直人

夏の暑さがひと段落して、朝晩の涼しい風が心地よく感じられる季節になりました。秋の虫の鳴き声も聞こえてきて、徐々に秋が深まりつつあることを感じるこの頃です。

9月は午前保育でしたが、10月からは、ようやく通常の保育ができるようになります。子供たちは、お弁当の時間も楽しみにしていることと思います。保育時間も長くなりますので、より充実した教育活動を行うことができるよう教職員一同、頑張っています。ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

さて、秋は、「〇〇の秋」とよく言われます。そこで、「〇〇の秋」の由来とともに、子供たちの活動について紹介したいと思います。

秋は、食べ物が美味しい季節ですね。「食欲の秋」の由来は諸説ありますが、秋は様々な食べ物が収穫時期を迎える「実りの秋」であることや、冬の寒さに備えて自然と食欲がわくことなどから、「秋はおいしいものをたくさん食べられる季節」というイメージにつながったという説が有力とされています。「天高く馬肥ゆる秋」のフレーズも、「食欲の秋」をイメージづける要因となったようです。

赤羽幼稚園では、春に植えたサツマイモが、夏にぐんぐんツルを伸ばしています。子供たちは、水やりをしながら、葉の変化や蔓が伸びていく様子に気付き、収穫を心待ちにしています。他にも秋の果物、ブドウを製作したり、校庭の柿が色づく様子を見たりしながら、「食欲の秋」に親しんでいます。



「読書の秋」は、中国の唐時代の詩人・韓愈(かんゆ)が詠んだ詩「符読書城南」の「灯火親しむべし」という一節に由来すると言われています。これは、「涼しい秋の夜長は灯火(ともしび)の下で読書をするのに適している」と、韓愈が息子の符に読書を勧めたものです。日本では、明治時代に夏目漱石が小説「三四郎」の中でこの詩に触れたことで、広く知られるようになりました。10月27日～11月9日(文化の日を中心にした2週間)が読書週間であることも「読書の秋」のイメージに繋がっているようです。

赤羽幼稚園の子供たちは、読み聞かせが大好きです。これからも、たくさん本に親しんでほしいと思います。



「芸術の秋」は、古くは「美術の秋」という言葉が、大正7年に雑誌に掲載されたのが始まりだそうです。涼しくなることで集中力が増し、創作活動に身が入ることから、文化的活動に適した季節とされています。また、日展、院展、二科展といった、有名な展覧会が秋に数多く開催されることも「芸術の秋」のイメージにつながったようです。

赤羽幼稚園の子供たちも、日々創作活動に意欲を燃やしています。「お月見の会」のときには、月見団子やうさぎを作りました。先日の三田国際ビルへの徒歩遠足で拾ったドングリを使って、ドングリ転がしのコース作りやケーキ作りなど、繰り返し楽しんでいます。



そして、最後は、「スポーツの秋」です。涼しく天候も良い秋はスポーツに適した季節であることや、昔は、農作物の収穫が終わった頃に運動会が実施されることが多かったこともあるようです。

昭和39年には、東京オリンピックが開催されました。昭和41年に、東京オリンピックの開会式が行われた10月10日が「体育の日」として制定された(現在の名称は、「スポーツの日」)ことで、「スポーツの秋」のイメージが定着したそうです。

10月23日(土)は、子供たちが楽しみにしている「運動会」です。赤羽幼稚園では、「運動会」に向けた準備を少しずつ進めています。今年度も、新型コロナウイルス感染症予防対策を講じての実施となりますが、保護者の皆様のご理解・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

